

学位記番号： 修士第38号  
氏名（本籍）： 高嶋愛里（京都府）  
学位の種類： 修士（看護学）  
学位授与年月日： 平成15年3月27日  
学位論文題目： 中南米ニューカマーの母親の育児ストレス

## 論文内容要旨

**目的** 中南米ニューカマーの育児ストレスの特徴を明らかにする。

**方法** 滋賀県在住の末子が1歳から12歳の子どもを持つ中南米出身のニューカマーの母親を対象とし、公立甲賀病院の外来、病棟、野村医院の病院受診者及び、草津カトリック教会ミサの参加者に質問紙調査法(訪問面接法、留置調査法)を用いて、研究者本人と各部署の看護職員が、研究協力依頼書を手渡し、同意が得られた母親へ質問紙用紙を配布し回答終了後回収した。調査内容は、既存の育児ストレス尺度と母親、子ども、夫の属性、保険加入の有無ソーシャルサポートについての項目である。本学倫理委員会14-32で承認されている。調査期間は2002年9月20日～2003年1月9日にかけておこない、ペルー13名ブラジル12名合計25名の有効回答数を得た。データ分析には、統計パッケージSPSS 11.0 for Windowsを用いた。

**結果** 育児ストレス尺度のParenting Stress Index(PSI)のサブスケールである「親の特性」、「子どもの特性」、「ライフイベント」をSpearmanの順位相関係数で分析し、先行研究と同様の相関が認められた。対象者の各背景とPSI各サブカテゴリーの合計点数間の差をKruskal-Wallis検定、Mann-WhitneyのU検定にて分析し、母親の国籍、滞日期間、年令、健康、子どもの数、相談相手の項目において、PSIの各サブカテゴリーに有意差がみられた。

**考察** 1. 「現役割規制」が、PSIのサブスケール中で平均点が一番高く、母親自身が、自分のアイデンティティ、自分の人生を肯定的に考えられるような援助をおこなう必要性がある。  
2. 6年以上の在日期間において「配偶者との関係」「子どもの適応性」の項目において、育児ストレス値が高く、子どもが環境にうまく適応で

きるように援助することがニューカマーの母親の育児ストレスを軽減することにつながる。

3．配偶者との関係は、多くの項目において有意差が見られ、配偶者からの情緒的なサポートが受けられるような援助をする必要がある。

4．親の健康においては、健康状態が普通の群において、「社会的孤立」と「配偶者との関係」のストレス値が高くなっていた。従って健康な母親も社会的に孤立させない様に子どもの健康診断、予防接種、イベントなどの情報提供を積極的におこなうことが必要であり、保健センターなどから日本人と同様の情報に加えて、保健に関する利用可能なソーシャルサポートを紹介する。

5．ソーシャルサポートの既知では、情報を持っていない群において、「親の健康」のストレス値が高くニューカマーが地域との関わりをもち、日本社会での生活を安定させるには、言語の壁と、異文化背景を持つニューカマーが社会参加できやすいような、地域のお祭りなどの行事の情報提供や、参加の促しが有効である。